



Sponsor a Child

# クリスチャンパートナーズ

## 通信第 91 号

- 
- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| ・発行日 / 2013 年 12 月 10 日                               | ・発行所 / クリスチャンパートナーズ                 |
| ・事務局 / 〒422-8053 静岡市駿河区西中原<br>2 - 7 - 63 - 111 竹澤三佳子方 | ・Tel / Fax 054-283-1721             |
| ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994                          | ・e-mail / sunflower818@hw.tnc.ne.jp |
|   | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/        |
- 

### 無価値な者への神の愛

「イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れてきた。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。『子供たちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきりしておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。』そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」（新約聖書 マルコによる福音書 10 章 13~16 節）

理事長 木ノ内 一雄

マラリアは、菌を持った蚊に刺されることにより人に感染しますが、厚生労働省検疫所の資料を見ますと 2010 年には推計で 66 万人がこの病気で亡くなっています。そして、その殆どはアフリカの小児です。数年前にアフリカに行きましたが、そこでの会議中、出席者の一人が挨拶を終えると家に帰って行きました。訳を聞くと、彼の三人の子供の一人はマラリアで死に、今、また娘がマラリアにかかっていると言うのです。アフリカでは親は子供が成長するまで余り愛情を注ぐことはできないようでした。子を失う痛みに耐えられないからです。

主イエスの時代も同様でした。主イエスに子供たちを祝福してもらうのは意味があったのです。ところが弟子たちは子供たちを連れて来た人々を叱ったのです。なぜなのでしょう。多分、弟子たちはイエスにエルサレムに上り、神の国を樹立してもらうつもりだったからです。主イエスは王になり、自分たちも支配者として重責を担うつもりでした。神の国はエルサレムに始まり、近郊の国々、そして世界の果てにまで及ぶのです。大切な使命を帯びているこのお方をそのようなことで煩わせてはならなかったのでしょうか。

しかし、主イエスはそのような弟子たちを見て憤られました。悲しまれ、心を痛められたのです。なぜなら、神である主イエスがこの世に来られたのは一人で生きることのできない子供、生きる意味や価値を見出すことのできない孤独な者や病人、老人、罪人のためだったからです。そのような人を主イエスは招かれ「抱き上げ、手を置いて祝福され」たのです。

弟子たちの夢は結局、砕かれてしまいました。主イエスは神の力で戦うことはなされず、民と指導者に裁かれ十字架に付けられたからです。しかし、主イエスは三日目に墓から甦られました。弟子たちは神の使命に立つ強い者でしたが、主イエスの死後、弱く、無価値な者となったのです。その弟子たちの心に主イエスは霊となって宿られました。それが五旬節（ペンテコステ）の出来事でした。主イエスは弱く無力なわたしたちの心に宿るのです。医療の手が及ばないアフリカの子供たちを憐れみ、共におられ、祝福されるのです。わたしたちの本当の幸せは主イエスが共にいてくださる、ということなのです。

2012~2013 年にわたるガーナ北部ワレワレ-ヤマでの農業研修活動  
について、エイモス・バンマリグ師から 8 月末に報告が届きました。

理事 木ノ内和美

今回のガーナレポートは、エイモス・バンマリグ師が率いるチームの様々な活動のうち、クリスチャンパートナーズからの支援が、山羊の飼育プロジェクトに宛てられている様子をはっきりさせた点で、大変わかりやすい報告です。

理事長がガーナを訪問してから 2 年余経ちましたが、まだ村の生活はそれほど向上していないのが現状です。その中で、地域に住む人々の生活改善をめざし、山羊の飼育を広めることを通して、福音宣教のために尽力しておられるバンマリグ師の活動を、私たちは今後とも支えていきたいと思えます。

皆様の尊い支援金が、いまだガス・水道といったインフラの敷かれていない地域で具体的な生活の糧を作り出すために役立つことをご理解くださり、一人でも多くの方々に協力していただきたいと思えます。なお、支援金は随時、額を問いませんので、よろしく願いいたします。

## ガーナプロジェクト (2012~13) 報告

### エイモス・バンマリグ

初めに、2012 年を通して神様のお守りのうちにあったことに心より感謝すると同時に、2013 年も主の祝福がありますように祈ります。神様のお力とお守りによって、私たちみな健康が守られ、主の栄光のために労することができますように。アーメン

木ノ内牧師のもとでクリスチャン パートナーズの皆様が、ガーナプロジェクトにご支援くださることに感謝し、慈愛に富んだ神様が御業のために必要なことを、御霊によって成し遂げてくださいますように祈ります。

#### 【地域におけるプロジェクトの重要性】

ヤマとその周辺の地域にとって、山羊のプロジェクトは非常に重要です。この企画はその地域の貧しい人々の生計を改善していますが、特にガーナ北部の貯水池建設地域での食糧不安を減らす助けをしています。この企画はまだキリストを信じていない人々を対象としていますが、すでに 23 人の信者ができました。彼らはこの企画が有益であることを知り、生涯キリストに従っていく決心をしました。今やこの地域の多くが、福音伝道のために私たちを喜んで招き入れてくれます。主よ、このプロジェクトによって多くの人々が救われたことを感謝いたします。

#### 【プロジェクトの現状】

30 頭の山羊が購入され、15 人の未信者に分配されました。私たちは獣医のエマニュエルに山羊の健康面での世話を委託しました。み恵みによって山羊は丈夫に育っています。飼育者からの報告によると、すでに 17 頭の子山羊がいるそうです。現時点で、47 頭の山羊がいることとなります。私たちは今後もこのプロジェクトを続けていくつもりです。



子山羊がたくさん生まれました

(次号に続く)

SAC 里子の通うロバン村教会の活動報告が、シンガポール事務所を經由して、8月21日に送られてきました。

## インドネシア シンカワン教区 ロバン村教会宣教報告

牧師 サン・サカ・アシャン

主のみ名によって、皆様にご挨拶を申し上げます。

ロバン村教会の活動の現状は、SAC プログラムで支援していただいている子どもが 57 名おり、そのうちの 39 名が小学校に、16 名が中学校に、高校に 2 名行っております。主のお導きにより、福音宣教は順調で、牧師と教師たちは子どもや青年たちと大人の出席者を御言葉に、礼拝に導いております。毎週のプログラムは、日曜学校、青年礼拝、祈禱会、聖書研究会があります。(クリスチャン パートナーズが支援しているのは 30 名)

毎週、85~95 名の子どもたちが礼拝に参加しています。土曜夜の集会には 16~20 名の若者が来ます。日曜学校には 15~20 名の子どもと若者が出席。金曜午後には 16~20 名の若者が来ます。2013 年 6 月 17 日には日曜学校の生徒のための「福音の日」を開催しました。

2013 年正月には、シンカワンの鳥類公園への旅行を計画し、60 名の子どもが参加しました。復活節に教団が開催した集会に、145 名の子どもが参加して復活節を祝いました。



開園式に整列した園児たち

私たちが直面している問題は、子どもたちを高等学校まで行かせたいという希望を親が持っていないことです。大方の親は小学校すら卒業していないで、子どもたちを建設労務、農業労働、洗濯仕事などで働かせようとするのです。また、この地方では中国の古い伝統的な習慣が根強く残っていて、教会に来る人たちに影響します。特に、中国の正月を祝う 15 日間や、仏教の神様の誕生日などでは、教会に来なくなります。また、クリスチャンであっても先祖崇拜の習慣があり、子どもたちを参加させます。

私は牧師として、教会の周囲にあるこのような好ましくない習慣、伝統、文化が教会の参加者に与える悪影響を案じています。これらは私にとってのチャレンジであり、私がこれに打ち勝てるように、皆様もお祈りで支えてください。特に SAC で学ぶ子どもたちのために祈ってください。

ロバン教会が幼稚園の新築校舎を完成させ、教会もこれを用いることができるようになったのは大きなお恵みです。クリスチャンパートナーズの方々が、長年にわたり土地の取得から建築まで支援して下さったことを心より感謝いたします。主が皆さまに豊かな恵みをお与えくださるよう祈ります。

(Rev. Sang Saka Ashang)



園舎の側面



開園日のにぎわい

# ダミさんのこと

理事 宮澤 玲子

昨年5月木ノ内理事とご一緒にポンティアナクをお訪ねした時、高橋先生のご好意で当時卒論作成中であったダミさんにお会いすることができました。もの静かな落ち着いた雰囲気、真摯な眼差しが印象的なお嬢さんでした。このたび彼女の大学院進学をささやかですがお手伝いすることになり、彼女からのご挨拶を稲葉さんに翻訳していただきました。イヌマヌエル中学校で教師として働きながら、タンジュンブラ大学大学院で学ぶ彼女が初志を貫徹できますように、皆様のお祈りの裡に覚えていただけましたら幸いです。（「通信」第88号、第89号に関連記事）

『主の御恵みがいつも私たちの上にありますように。』

この手紙と共に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。ミヤザワ様のご好意により私に進学の手紙を再び与えてくださり、ご支援して下さったことを心から感謝いたします。お陰さまで試験も合格できました。これも神様がいつも私の生活の中で助けてくださり、ミヤザワ様と同志の方を私に巡り合わせて下さったこと、ほんとうに嬉しく思います。最初は費用がかかるので、お金もなく、進学する気持ちを諦めようと思っていましたが、神様は無限の力を持っていらっしゃるから、きっと私の祈り、希望を叶えてくださると信じました。再び学ぶ機会を与えられたことは偶然ではなく、神様がきっと私のためにこの素晴らしい機会を用意して下さったのだでしょうと信じています。神様からいただきました知識をいつか人のために役立てることができたらといつも願っております。将来は大学や県庁などで、この知識を生かせることができたらとても嬉しいです。神様は私のこれからの人生で一番よい道を備え、私の力や知識を必要とする人々のところに私を向かわせてくださるでしょう。

イヌマヌエル中学校でいろいろなテスト「面接、教育実習、心理学等」を受け、お陰様で全てに合格いたしました。現在はまだ半年間の見習いの身ですが学費の足しに少し給料のようなものをいただきました。（こういうわけで）現在私はイヌマヌエル中学校で教師をしています。この中学校はキリスト教系の学校ですが、通ってくる生徒たちはクリスチャン家庭でない生徒も多数います。ですから「イエス・キリストは救い主であること」、「すべての人間は神様の目にはみんな貴重な存在であること」を彼らに紹介することは、私たち教師にとりましてある意味の挑戦だと思えます。生徒の中には裕福な子どもたちもいれば、恵まれない子ども、親から見放された子どもたちもいます。どうか私たち教師が、全ての生徒たちに万遍なく愛情を注ぎ、教育という業に仕えることができますように、お祈りしてください。

9月には大学院の授業が始まります。一カ月に6回の割合で出席、金曜日から日曜日までです。日曜日は授業の前に夕方の礼拝、または朝の礼拝には必ず行きます。どうか、私が（賢い）時間の使い方や自分の健康管理ができますように、無事2年間を終えること、それから卒業できますようにお祈りください。以上ご報告と私のためのお心遣いとお支援への感謝の気持ちを伝えさせていただきます。

主イエス・キリストの御祝福がいつもありますようにお祈りいたします。

ダミ

2013年9月5日 ポンティアナクにて』

~~~~~  
【理事会報告】第181回理事会は2013年11月18日一ツ橋学会館で開催。2013年8,9,10月度会計報告承認。ダミさんが大学院に入学し宮澤理事が奨学金支援開始。「通信」第91号の記事は、パンマリグ師によるガーナプロジェクトの報告、西カリマンタンのロバン村教会の現状と幼稚園園舎完成報告、ダミさんの感謝状で、12月初めに発行。

第181回理事会は2014年2月17日一ツ橋学会館で開催予定。

編集後記 秋を楽しむ間もなく、待降節に入りました。今年最後のひと月、気忙しい日々ですが、混乱を極める世界の中で主のご降誕の意味を考える時を持てますように。当会で、一般大学で初めての大学院生の支援が始まりました。SAC里子の親たちにも、学校教育の重要性を理解してほしいですね。寒さの中、豊かなクリスマスと新年をお迎えになりますようにいのります。

鳥海百合子